

オヤジ登山隊 常念岳登山の記

2004/5/28 - 29

monsieur 向山



「クソー、こんなことなら昨日のうちに登っておくんだったナア・・・」

雨交じりの強風が真横から吹き付けていた。吹き飛ばされそうになる体を必死で支えながら、そう思った。

穏やかだった昨日の稜線の様子を思い出していた。荷物は山小屋に置いてきてしまっていた。レインウエアも着ることができず、時折混じる雨粒はまるで小石のように顔を打った。頭の中は周りの景色と同じように真っ白だった。足元を見つめ、一步一步頂上を目指す隊員の心にあるのは何としても頂上に立つのだという意地だけだった・・・。

(プロジェクトX・・・だった。)

~~~~ この書き方疲れるんだよね やめとこ ~~~~

1日目 2004年5月28日

午前4時 山崎邸前に集結した今回の山行参加隊員は、鈴木隊長、宮島隊員、山崎隊員、川村隊員、そして私 monsieur 向山の5名。そして、登山口の穂高まで我々を運んでくれるのは、宮島隊員の新車「日産キューブ」。坂本こたパパ登攀隊長と白井アックン突撃隊長の常連組が欠席とあって、今回は完璧なナンチャッテ登山隊である。アックンの都合でこの日に決めたのに、当の本人が参加していないというのはどういうこっちゃ！中国出張だって？始末書出せ！

キューブ宮島号



4時30分、荷物と人間でキャパシティー一杯になった、かわい目の1,400CCは長野県穂高町に向かって出発。早朝の道路は渋滞も無く、八王子から中央道をひた走り、7時半頃豊科インターに到着。登山口につづく一の沢林道の入り口が分からずちょっとだけ迷ったが、優秀なカーナビ(ただし居眠りする)のおかげで何とか林道を発見(大袈裟な)。林の中のワインディングロードをしばらく走り、8時少し過ぎに登山口のひえ平に到着。駐車場はかなり手前にあり、歩くのは嫌なので行ける所まで行くことにするが、登山口のすぐ下で工事をしていてそれ以上上がれない。ちょっと広めの路肩に車を止め、それぞれ準備を整え歩き始める。ここから常念岳が真正面に見えるはずなのだが、あいにく曇っていてその姿を見ることができない。

林道の終点に登山補導所ときれいなトイレがある。登山届を出



し、いよいよ山道を歩き始める。沢沿いの林間コースをゆっくりと登る。ガイドブックによればこの川の水は充分飲用になり、かなり上まで水場があるので水を持たなくとも大丈夫な、荷物を軽くしたい者には助かる登山道なのである。その分余計にアルコールを持ってこることができ、足腰の弱った飲んべえにも大変助かるコースといえよう。



1時間ほどだらだら登ると『大滝ベンチ』と看板のある場所に着く。看板どおり木のベンチがある、足腰の弱った飲んべえはレギュラーガソリンを補給したいところだが、やっぱりまだ先が長いし、朝の9時半だからねえ。冷たい水でがまんです。

ところどころで小さな流れを渡り、うだうだ登っていくと雪渓が見えてきた。この雪渓から解け出した水が川となって流れ下っているのである。雪の多い時期ならこの雪渓をまっすぐ登っていくのだが、この時期はもう夏道になっていて、川の右岸を高巻きするコースとなっている。急な登りが続くが道はきちんと整備されていて歩きやすい。ぐるっと迂回してまた川の上部へ出、そこを渡渉すると最後の水場の立て札が。水を補給してしばらく歩いたところで昼食。山ちゃん食い過ぎだよ。

ここまで出会った登山者は下山していったカップル一組と、我々を追い越して行って下ってきたおじさん一人の3人だけ、まさに貸し切り状態である。



ゆっくりお昼を食べて、さて、ラストのひと頑張りです。鈴木隊長の持ってきた得体の知れない錠剤「食べる酸素 O<sub>2</sub>」を食べたのだが、特別に楽になったような気はしない。なんだかやたらに「おなら」が出るのはO<sub>2</sub>のせい？「ガス」は山には付き物ですけど…。

登山道の所々に残雪が現れるようになるが、たいした量ではなく、アイゼンの必要はなし。「なんだよー、全然平気じゃん！12本爪のアイゼン持ってきたのに」って誰ですか？

そして、突然視界が開けると目の前に雪渓が。無邪気なオヤジ達は早速雪をバックに記念撮影。急斜面の雪の中でポーズ…アホです。だってほんのちょっと登った先にもっとすごい景色が待っているのに。ここですれ違った本日2組目のカップルに冷ややかな目で見られてしまった。

そこから、ほんの2~30歩登り詰めた稜線上が常念乗越でした。一気に視界が開け目の前に感動の景色が広がる。稜線を少し下ったところに今日の宿である常念小屋の赤い屋根、その向こうに目を上げれば北アルプスの山々が連なっているのが見える。中でもひととき目を引くのが槍ヶ岳の鋭い穂先である。これですよ、これを見たくてここまで登ってきたんです。左に目を転じると常念岳、右には横通岳。今にして思



常念乗越から槍ヶ岳  
手前の赤い屋根が常念小屋

えばこの時根性を出して常念の山頂まで登っておけば・・・。「時間もあるし、上まで行ってみる？」みんなの心にも一瞬その思いが浮かんだのだが、心の反対側でささやく「明日でいいじゃん。早く一杯やろうぜ」の声にあっさり降参、いそいそと常念小屋へ。

大正8年(1919年)に建てられ、日本アルプスの中で最も古い山小屋のひとつに数えられている常念小屋だが、改築されてとてもきれいである。割り当てられた部屋は木の香りも爽やかなピカピカの壁と天井で、これはつい最近の改装のようである。結局この日泊まったのはわれわれのパーティー5人だけであった。つまり、貸し切りである。だから、5人に2部屋という、山小屋では考えられない余裕の部屋割り。のんびりできていいようだが、200人位は泊まれそうな小屋にたった5人というのは、かえって寂しいものだ。小屋のスタッフのほうが人数が多いくらいで、9,000円の料金を払っているお客さんなのに、なんだかお願いして泊めて頂いているような気になってしまう。僕らしかいないので、いつも見られているような気がして、なんだか見張られているみたいで落ち着かないのだ。まあ、ずーと無視されてるってのもやな感じだけどね。



ともかく、荷物を部屋に置いて常念小屋名物(?)のテラスで槍ヶ岳を眺めながら酒盛りを始める。混んでいたらこの場所だって簡単には確保できないはずだから、やっぱりすいて良かったです。ところで、名物(?)だけあってテラスからの眺めはたいした物でした。曇り空なのが少々残念でしたが、スカッと晴れていたらもう最高でしょう。槍ヶ岳って本当に格好いいです。酒飲むのも忘れて見とれてしまいました。(嘘)

小屋の食堂に『生ビール』とあるので注文したら、まだやっていないとのこと。んじゃ、冷えたビール有りますかと聞くと有ると言うのでお願いすると、カウンターの下ダンボールから取り出して「どーぞ」・・・うーむ、気持ち冷えてはいるけどね。室温です。ちなみに廊下の温度計を見ると13 だったような(記憶が定かでない)・・・

山ちゃんの持ってきた山のようなつまみと、鈴木隊長の定番「コンビーフ&タマネギ炒め」で盛り上がり、そのマンマ6時の夕食(マンマ)になってしまう。メインは「煮豚」とその他いろいろ。(記憶が怪しい)山小屋に食事を期待してはいけませんが、内容は去年の赤岳展望荘のほうが良かったかな。

この時はあまり深く考えなかったのですが、翌日の事件?の時に気が付いたことがひとつ。それは、山小屋のスタッフがみんな我々と一緒に食事を摂っていること。我々5人しか宿泊客がないからなのかも知れないが、普通は客が終わるまで待ってるもんなんじゃないの?山小屋ってどこもそうなのかな?

食事の後は部屋に戻ってまたうだうだ飲んで、寝たのは何時だったのか。ゆったり寝られて快適でした。

2日目 2004年5月29日(土)

風の音で目が覚める。ピューピュー窓が鳴っている。部屋から槍ヶ岳がきれいに見えるが、かなり強い風が吹いているようだ。時計を見ると5時少し前。6時の朝食までの間にスケッチでもと思い、外に出てみる。やはり、外は猛烈な風が吹いていた。大して冷たくはないものの、槍ヶ岳方面から横殴りの風が絶え間なく吹き付けてくる。山



小屋の前に置いてあるテーブルに座って、スケッチを始めたが、押さえていないとパレットが飛んでいってしまう。15分位で何とか一枚仕上げ、ほうほうの体で山小屋に退散。

朝食は、やっぱり山小屋のスタッフも一緒です。おかずは何だったのか忘れちゃいましたけど、おいしかったです。

いっぱいいただいて、さて、食後のコーヒーでもということになって、鈴木隊長が「コーヒーお願いします」と言うと、オヤジさんが「今、食事中だから！」って当然！みたいのにのたまう。隊長思わず「あっ、後でいいですよ、後で」…完全に相手のペース。最近は山小屋も結構サービス良くなったなんて聞くけど、この山小屋のアルジは違います。常念小屋には常念小屋のルールがあるんですね。スタッフが食事を摂っている時は何か頼んじやいけないんですよ。お金払ってるからといって、お客様扱いはしてくれないのです。このオヤジさん、後でストーブに入れる石油を溢したとかで、小屋の兄ちゃんをボロカスに怒ってたけど、川村隊員が味噌汁こぼしたときには何にも言わなかったぞ。よかった。

と言うような訳ありのコーヒーでゆっくりして、いざ常念山頂アタックに出発です。青空が見えていますが、相変わらず風がパービュー吹きつけています。山頂までは山小屋から片道1時間の往復なので、荷物をどうするか悩んだが、結局、私と山ちゃん、鈴木隊長は荷物を持たず、山小屋に預けていくことにする。宮島隊員と川村隊員はザックを背負って登ると言う。元気である。レインウエアを着て行こうかと一瞬思ったが、暑くなると嫌なのでザックと一緒に小屋に置いていく事にしたが…これが失敗でした。

山頂への道はずっと上まで見えていて、1時間もかかるとはとても思えない。2~30分で登れそうな感じ。…これが、山では怖いのですが…。ガレ場と岩の単調な登りが続く道を登り始めるが、右側から強烈な風が吹きつけ、体を持っていかれそうになる。稜線を見ると右側(西側)がなだらかで、反対側が切り立っている、ここは常にこんな風に強い西風が吹いているのだろう、強い西風によって稜線の西側(北アルプス側)が削られて滑らかになるのだろう。それにしても平地ではなかなか経験できない風である。

朝のうちは晴れていたのだが、登り始める頃には、西の方に嫌な感じの雲が広がりだしているのが見えた。案の定、暫くすると、強風は湿り気を含んだガスの塊となって稜線上の我々に襲い掛かり、あっという間に視界は数メートルにまで落ちる。途中からは時折雨が混じるようになり、まるで砂粒が降っているのではないかと思うほどの強さで顔を打つ。



ウインドブレーカーでは到底防ぎきれない。…と、ここで冒頭のシーンとなる訳であるが、本当にすごい風でした。丈夫な傘をさしたらふもとまで飛んでいけそう。

強風に逆らって、午前8時5分、何とか全員無事山頂までたどり着く。視界は限りなくゼロに近く、有名な槍ヶ岳から奥穂高までの景色は、残念ながら全く見ることはできなかった。しかし、何か苦労して登った！という感じがして、これはこれで達成感を感じることができたと思う。今回はザックのみの参加だったアックン自慢のザックとともに記念撮影をして、早々に下山。アックンのザックは川村隊員が担いで来ていたので、



相変わらず横殴りの風と雨にさらされ、山小屋までひたすら下山。山小屋は見えているのになかなかたどり着かない。たいした雨ではないのだが無防備の我々をすっかり濡れ鼠にしてくれた。結局山小屋に飛び込んだ時には全員水を滴らせて「あーツメター」宮島隊員と川村隊員はレインウエアを持って行ったにもかかわらず、あまりの風の強さに着ることもできず、意味ないじゃん。

一息ついた面々、レインウエアを取り出し、しっかり雨支度、ザックカバーも付けて完璧！いざ、出発…って、外に出てみたら、あれ？雨あんまり降ってないぞ。なんだかこれじゃ暑いだけじゃないの？ あつものに懲りてなますを吹く？

結局雨はこの後強く降ることはなく、下り初めて早々にレインウエアは脱いでしまったが、降ったりやんだりはっきりしない天気、着たり脱いだり面倒くさいっらない。

途中、登ってくるパーティーと何組かすれ違っただけであった。この時期、まだこのあたりは静かな登山ができます。危険な箇所もないし、ゆっくり登ってさえ行けば絶景(天気が良ければですが)の頂上に立てる、お勧めの山のひとつと言って良いでしょう。



かなり下った所で、何度目かの休憩をしていたところ、宮島隊員「あれ？靴が壊れちゃった」…見ると、片方の靴の底がベローンと半分ほどはがれてパカパカになっている。車のある所まではまだ2時間近くは歩かなければならないが、このままでは底なし靴で歩くことになってしまう。どうしようか、困ったねと思ったところ、山崎隊員が「テーピング用にテープを持ってきてるからそれ使ってくっつけといたら？」と、まっさらのテーピングテープを差し出してくれた。おーッ素晴らしい！備えよ常に！です。テーピングのテープってのは結構丈夫にできてます。これで靴をグルグル巻いて補強するとバッチリでした。でも、知らない人が見たら、「あいつら、何にも知らないんでやんの、靴の上からテーピングしたって意味ねーじゃん」とか、思ったりして…。

そんなこんなで例によってノンビリ休みながら歩いて、登山口に付いたのは1時30分。

## 登山口から見る常念岳



やれやれ、みんな無事下山。お疲れ様でした。「日産キューブ宮島号」もちゃんと待ってました。

宮島号に乗り込んで、お待ちかねの温泉へ。一の沢林道を一旦下って田園地帯に出たから、もう一度別の道を登りなおして暫らく走り、着いた所は「ほりで一ゆ 四季の郷」

<http://www.holiday-you.co.jp/> という立派

な温泉保養施設。いかにも第三セクターの経営です！って感じの新しくて綺麗な施設です。日帰り入浴 500 円。露天風呂から、下りてきたばかりの常念岳が見え、なんともいえない気分です。朝の天気は嘘のように晴れて、頂上までくっきり見えていました。ここのレストランで遅めのお昼を食べようと思っていたのですが、「遅め」すぎてレストランは午後のお休みタイム。こういうところもいかにも第三セクターの経営っぽくて腹も立ちません。町の方まで下りれば何かあるだろうと、「宮島号」で走り回りましたが、みんなが食べたいと思った「蕎麦屋」はどこも休憩時間中。インターチェンジの近くまで来て、やっと見つけた蕎麦屋はファミレスみたいな店でしたけど、一応蕎麦を食べることができました。

帰りは鈴木隊長の運転で、談合坂 S A まで。後は山崎隊員の運転。相模湖インターを出て、半原を通るあたりで山崎隊員、自信を持って道を間違えたりしましたが、9 時頃無事希望が丘へ帰着。皆さんお疲れ様でした。

山頂アタックは風雨にさらされて厳しかったけど、常念小屋から見た槍ヶ岳の勇姿は素晴らしかったです。あの景色を見る為ならもう一度登ってもいいですね。自分の足で苦労して登った者にだけ与えられるご褒美です。これだから「山」っていいんだよね。山ちゃん。おいら向「山」だし。

～了

データ 2004.5.28 (曇) - 29 (曇一時雨のち晴)

常念岳 (2857m) 一の沢コース ピストン

タイム 28 日 8:30 ひえ平 - 9:30 大滝ベンチ - 11:00 胸突き八丁 11:40 最後の水場

14:00 常念乗越 常念小屋泊 29 日 7:00 小屋発 8:10 常念山頂 - 9:00

常念小屋 9:30 - 10:30 胸突き八丁 - 13:30 ひえ平

飲んだ酒 ビール 焼酎 ウイスキー 他

参加メンバー： 鈴木 宮島 山崎 川村 向山 アックンのザック

## おまけのアルバム

山頂の鈴木隊長・川村隊員



アックンのザック

